



## 「何を歌えばいい？誰を慕えばいい？」

～創造主なる神様を思い切り賛美できる恵み～

「その同じ驚くべき神の力は、キリストのうちに働いて、死人の中からキリストを復活させ、天において父である神の御座に着かせ、自然界、超自然界を含め、過去・現在・未来に渡る全世界を支配するお方とされた。また、神はすべてのものをキリストの支配下に置かれ、全被造物を支配するお方として、キリストを教会の頭とされた。だから、教会はキリストの体であって、キリストが満ちあふれる所である。」エペソ人への手紙1章20-23節 現代訳

今回送られてきた「舟の右側」の特集は「在留外国人への宣教」。主任牧師である大川牧師もこのことに重荷を持ち、新大久保に新しい宣教の拠点を建て上げておられます。今や日本にいる外国人は260万人以上で全人口の2%を占めています。そして、その中に含まれるのか、在日韓国人の方々は約45万人、在日朝鮮人の方々は約3万人おられるということです。その方々の中には二世、三世になる方々も多くおられる。

その中のお一人の方のお証しのインタビュー記事が詳しく載っていました。その方は独身の女性で、お父様が韓国籍、お母様が朝鮮籍で、幼い頃離婚し、朝鮮籍の母親と共に成長し、幼少時代から朝鮮学校で学び、「愛国愛族」の精神で、金日成崇拜中心に極端な思想の中で育てられました。

しかし、そんな中、自分は朝鮮人なのか？南朝鮮人（朝鮮人は韓国と呼んではいけない）なのか？はたまた日本人なのか？複雑な世界の中で苦しむようになりました。

そんな中、クリスチャンに出会い、教会で行われるコンサートに行くチャンスが与えられて、不思議な心の平安を味わう体験をしますが、その翌日、金正日が亡くなるというニュースに触れて、自分が教会なんかに行ったからだと自分を責めてしまう。

それから一年後、教会の牧師から電話があり、思想についての会話をして、自分には北朝鮮で教えられた思想があるので、クリスチャンにはなれないと思っていたが、それは、金日成を神のように崇拝していたから、しかし、それは、もうすでに死んでしまった金日成が祖国を統一してくれると信じていたから。しかし、死んだ人にもうそんなことはできない。死んだ人が祖国を統一してくれるわけがない。また、もう死んでいる人を喜ばせることはできない。そう思い、思い切って初めて教会の礼拝に出席してみた。するとその時に「生きた神様」がいることをはっきりと感じた。この方にお願ひすればよいのだ！と思えた。そして、今まで信じていた金日成は神ではない、イエス様だけが救い主であることを宣言し、今までの考え方と決別して、新しい人生を歩めるように変えられた。それまで、金日成を讃える歌ばかりを歌っていたが、今度はそうではなく、本当に賛美を捧げる方に出会うことができたことに心から感謝をささげています！という内容でした。